

くらしの目線で市政を変える

こんにちは **日本共産党** **西野さち子** です！
京都市会議員



発行：2021年11月28日 連絡先：京都市伏見区新町10丁目3 8 1 日本共産党伏見地区委員会 Tel:075(611)9135 FAX:075(602)9117

「行財政改革計画」は撤回しかない！



くらし、雇用、営業守れと府市民総行動

11月16日に市役所前で「コロナからのちと暮らし、雇用と営業を守る—21秋の府市民総行動」が行われました。パレードの前に行われた集会では、参加された各団体から訴えがありました。京都市の行財政改革計画による敬老乗車証制度の改悪や児童館学童保育所の利用料大幅値上げにとどまらず、今後計画されている福祉切り捨ての見直しや、北陸新幹線計画などの大型事業などに多額の税金投入計画の見直し等が訴えられました。最後に訴えられた業者団体の方からは「コロナで苦しんでいる市民に対して、門川市長は市民を応援するのではなく苦しめている。市長は市民の暮らしを知っていますか！」と怒りの声があげられました。

集会の後、市役所の周囲をパレードし西野市議も参加しました。府市民総行動では市内1カ所にした保健所の見直しや自営業者への減収対策など、75項目の要請書を市に提出しました。

テレ朝系「モーニングショー」で 不正確な報道 共産党市議団ただちにテレビ局へ抗議

日本共産党京都市会議員団は、11月19日に放映された放送で、報道された内容が井坂団長の発言の一部だけを切り取って市庁舎の建て替え全てに賛成したような内容になっていることに対して、テレビ局に抗議し談話を発表しました。団長談話の主な内容は『職員の執務環境改善や耐震改修は必要だが、「今の京都市財政と市民生活のもとで、建設費は可能な限り縮減すべき」「地下通路や庁舎の一部に民間店舗を引き込むなどは不要である」ことを指摘し、建て替えの工事契約に市議会の中で唯一反対してきました。議場の改修については、耐震化・バリアフリー化された以外は、天井や窓などももとの構造と変更がないことから「豪華とまでは言えない」と答えたものです。日本共産党市会議員団が市役所整備についてとってきた立場や、論戦の全体について触れることなく、一部の発言

が切り取られ、党市会議員団の立場が正確に伝わらない形で放映されたのは残念です。

市庁舎整備は完了しておらず、党議員団は、今後も必要な見直しを提案し、市長に経費の縮減を求めます。また、財政危機キャンペーンを行って福祉施策の削減など市民に負担を押しつける「行財政改革」を中止し、北陸新幹線延伸など将来の市民にも負担を負わせるム



市役所とゼスト御池を結ぶ地下通路は13億円の無駄遣い

ダな大型公共事業推進を改めるよう今後も声を上げます。』と言うものです。全文は議員団ホームページに掲載しています。

かわら版

「維新」はなぜ政党助成金を返金しないのか

国会で問題になっている文書通信交通滞在費について、日本共産党は「滞在費」の名目が増額された際には「東京都内在住の議員にも一律支給すべきでない」と反対し、その後も毎年予算審議で問題を指摘し反対してきました。共産党は使途についてホームページで公表しています。今回「維新の会」は「文通費」の日割りを問題にしています。当然見直すべきですが、最大の問題は年間320億円の政党助成金です。国会議員一人当たりになると月300万円以上になります。領収書不要です。身を切る改革といつも言っている「維新の会」は2015年からこれまで計64億9500万円を受け取っています。使用できなかった政党助成金を返金せずため込んでいる議員も多くいます。ため込んだ額は13億3800万円にも上ります。「文通費」の日割りでお茶を濁すだけでは許されません。身を切る改革と言いつのならば、政党助成金こそ廃止すべきです。

